



オンライン語り部LIVE 2022

語り部LIVEの様子はこちら！



参加費
無料

東日本大震災から11年を迎える中、当時を知らない子どもたち、幼かった子どもたちも小学生・中学生・高校生と成長しています。日本赤十字社宮城県支部は、JRC加盟校のメンバーに被災地の想いを繋ぎ、災害発生時には自分のいのちをしっかりと守ることができるよう公益社団法人3.11メモリアルネットワークと協働して、**12名の語り部さんの生の声をZOOMで配信します。**



子どもたちが災害を
自分事として考えられる！

全国のJRC加盟
小学校～高校と**一緒に
視聴できる！**

感想用紙で「**自分の言葉にする**」
振り返りができる！



JRC語り部LIVEを取り入れた防災教育例



(徳島県阿南市立橋小学校)
お話のポイントが先生が板書し、子どもたちの感想を模造紙にまとめたり、まち歩きで安全・危険な場所をチェックをしたりしました。トンガ噴火に伴う津波警報が出た際には、子どもたちが保護者とともに高台に避難するという行動にも繋がりました。



(熊本県山都町立蘇陽中学校)
生徒たちは当時幼く、過去の災害を知らないことも多いが、できること、やるべきことを考えるきっかけとして参加。保護者への情報発信や、防災・熊本地震・阪神淡路大震災についての学習、町役場職員からお話を聞くなどの事後学習で、生徒たちの理解を深めました。



(山口県徳山商工高等学校)
高校のJRC部で視聴後、自校でも他の語り部さんのお話を聞く機会を作りました。その後、防災活動としてBousaiCafeを始め、防災カードゲームや他校との交流会、震災伝承団体とのイベント、避難所機材の展示などを企画しています。



青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」もぜひ活用ください！



東北大学災害科学国際研究所

佐藤翔輔 准教授も語り部LIVEを推薦！

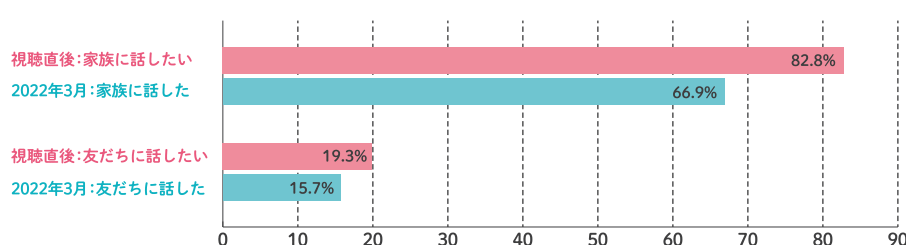
防災教育のコツは「災害を我がこととして考えてもらう」にあります。その効果的な方法のひとつが、語り部さんから体験を聴くことで、災害を「追体験」「疑似体験」することです。ぜひ、ご参加いただき災害を乗り越える力を身につけましょう。

※参加する子どもたちへのアンケート調査の設計・分析で日赤と連携しています。



昨年度の調査結果

語り部LIVEを視聴して子どもたちにこんな**行動変容**が！ n=1,088

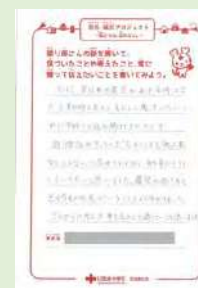


語り部さんのお話を聞いた直後に「誰かに話したい」と思っていた子どもたちの多くが実際に語り部さんから聞いたお話を家族や友だちに伝えています



子どもたちの感想

- 震災があったのは2才のときで全然覚えていないけれどお話が聞けてよかったです。(小学生)
- 「いつか災害が起きる」ではなく、「今災害が起きたら」が大切だなと思いました。(中学生)
- 「自分は大丈夫。」などと油断することが危険だと知りました。(高校生)



先生方のご感想

- 自分たちに語りかけてもらっていると子どもたちは集中して聞いていました。(小学校の先生)
- 東北修学旅行の事後学習として訪れた場所の理解が深まりました。(中学校の先生)
- 日常のホームルームや家庭でもこの話をもとに考えてくれました。(高校の先生)

参加校・参加者数※

令和2年度…全国103校 10,951名
令和3年度…全国58校 4,221名

語り部さんのお話を多くの子どもたちに聞いてもらい、子どもたちが学校、家庭、地域で語り手となり、いのちを守ることを期待しています！



※年度により、時間・参加条件が異なるため、参加校・参加者数も異なります。



3点セット
プレゼント



参加する子どもたちの人数分、3点セットをもれなくプレゼントいたします！
(配信地域のマップ、アクションカード、参加記念品)